

紫式部

せん

りゅう

川柳

コンクール



結果発表

たくさんのご応募、
誠にありがとうございました！

特選

いいおさらだね

どんなごはんを

たべてたの

まるたどみ様

(選評) 出土した平安時代の皿。今だったら何を盛ろうか、考えますよね。平安の人は何を盛り、食たのか、よくわかりません。考古資料館は、あなたと同じく、「どんなごはんをたべてたの」と問いかけ続けているのです。

当選された方には、各賞品と賞状をお送りいたします。

入選

どう見ても猿には見えぬ猿面硯

ノスタル爺様

(選評) 隅を丸くした長方形や楕円形の硯を猿面硯というようです。なかには中央が少しくびれたものもあり、これを称して猿面なのかな。

上手いのか下手か分からぬ土器の文字

山宗雲水様

(選評) 土器に墨で書かれた文字は、器の所属を記したり、即興の歌だったり、文字の練習だったり。いつげん下手そうなの文字にも、どこか味があり。

絵巻物ドローンの視点で描かれる

山由文一様

(選評) なるほど、絵巻物の視点は斜め上方からの鳥瞰風。ドローン全盛の現在にもまして、平安朝のまなざしは、上の方から、斜めから？

子は間取り母そうじ気になる邸宅跡

桜小町様

(選評) 平安貴族の邸宅は広い。学校のグラウンドほどはある。間取りとはいえば、几帳なとて自由自在に区切られていたらしい。掃除？考えて、ありません。

エコだわね 須恵器を硯にしちやうとは！

田井茂実様

(選評) れつととした須恵器の硯はあめですが、それでもずいぶん多いのは器やその破片を再利用した硯。エコとは変化させること。

世が世なら競い合いたい筆自慢

伊都様

(選評) 文字を手で書くこと、ずいぶん少なくなりましたが、いまだ書道は健在。墨を「書く」ことが、日常の平安人といふ勝負！過去との関わり方もいろいろ。

池泉枯れ 州浜の石の残る庭

吉田紫紅様

(選評) 湧水豊かな水の都、平安京。発掘で見つかる池に水なく、往時を伝えるのは石ばかり。それでもどこか雅を残し。

引かれた手母の手引いて式部展

井内和子様

(選評) 母「考古資料館に行こうよ」娘「お母さん気を付けて、うちよ」また来て下さい、お待ちいたしております。

バラバラの扇子も宝考古館

あつ子様

(選評) 紙も絹も残らず、地中に残されたのは木製の骨ばかり。しかもバラバラに出土し、いったい何の本さやら、でも、扇の部材と知れたら…。いとをかし。

焼けた壁 残して内裏ない無念

ナンサン様

(選評) 京都御所は精一杯平安朝の内裏を真似ています。でも、壁土のみとは！



京都市考古資料館
Kyoto City Archaeological Museum

京都市上京区今出川通大宮東入元伊佐町 265 番地の 1
TEL.075-432-3245 (代) FAX.075-431-3307
E-mail: museum@kyoto-arc.or.jp



ホームページ



フェイスブック



X (旧: ツイッター)